Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-07-10

序に代えて

塚原，東吾
松嶋，登

(Citation)
神戸のSTS：スプリング８をめぐるサイエンス・ベースト・イノベーション研究と低線量被曝の歴史研究
(Issue Date)
2021-02
(Resource Type)
book part
(Version)
Version of Record
(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90007907

序に代えて　　塚原東吾＋松嶋登

本号は、科学技術社会論（STS）学会、2020 年度年次大会の大会校である、神戸大学実行委員会が企画した２つのシンポジウムの記録である。

シンポジウム１は、「放射光科学とサイエンス・ベースト・イノベーション」と題し、主に神戸大学の松嶋登が組織した。神戸大学の桑田敬太郎・関西大学の原拓志・松嶋登、SPring-8 を擁する理化学研究所放射光科学センター（SPring-8）のセンター長である石川哲也、東北大学で新たな放射光施設の立ち上げを率いる高田昌樹が発表し、神戸大学の塚原東吾および東京都立大学の桑田耕太郎がディスカッサントして議論を提起した。

シンポジウム２は、「中川保雄記念シンポジウム：「放射線被曝の歴史」研究の現在的意義」として、神戸大学の山内知也・塚原東吾と東京海洋大学の柿原泰が組織し、東京大学名誉教授・上智大学の島薗進および神戸大学の田井中雅人が発表を行い、神戸大学の牧野淳一郎・山内知也がコメントを加え、ディスカッションを行なった。

そもそも、神戸大学が STS 学会の 2020 年度年次大会の大会校を仰せつかったのは、2019 年 11 月に金沢工業大学で開催された年次大会でのことであった。同年次大会でのアナウンスの後、国際文化の塚原は神戸大学内での実行委員会を立ち上げ、経営の原・松嶋、また海自の山内、文の松田、理の牧野らとの協議を重ね、関係各方面に手配を進めた。中でも実行委員企画として神戸ならではとなる記念講演とシンポジウムの組織化については、神戸の震災や災害マネジメントの研究、経営学（とりわけ技術経営 MOT）と STS の交流、低線量被曝をめぐる独自の研究伝統、現代技術の倫理をめぐる哲学的研究などの候補が上がり、それぞれの関係者を巻き込んで、活発な議論と準備が始まった。

しかし、2020 年初頭には、折からのコロナ禍で、通常の対面形式でのリアル開催の雲行きが怪しくなってきた。STS 学会理事会を中心に、神戸大学実行委員会にも諮問をしながら慎重に検討を重ねた結果、2020 年 6 月 19 日、調麻佐志会長名で、オンライン開催へ移行すると、全会員に対して会告されることになった。

残念ながら、神戸に一同に介した通常形式での開催は無くなった。だが、それでもなんらかの研究交流と STS をめぐるディスカッションを進めたい。そうした思いのもとで、実行委員会で企画していた様々な企画については、編成の工夫や再構成をするべく、感染者数や神戸周辺での感染状況、神戸大学側の警戒レベルの設定などに一喜一憂しながらも、可能な限り STS をめぐる議論を進め、幅広い研究交流を行いたいと努力を重ねてきた。その中で、オンラインでの開催を基本としながらも、一部は神戸大学の会場に集って報告およびディスカッションを行うハイブリッド形式が模索され、リアル会場としては、神戸大

学深江キャンパスの梅木Yホールを山内が手配することになった。

神戸大学で開催できなかった残念さは拭えないし、本来ならSTS学会のメンバーには、神戸に集まっていただき、直接の謦咳に接して、学術的な薫陶を受ける場にしたかったのだが、それが不可能であったのは、返す返すも残念である。それでもオンラインだけではなく、ハイブリッド形式をとったことによって、少しは臨場感を持てたかと思えるし、講演者およびディスカッサントをはじめとする各位の努力で、学問的には立派な議論となったことは喜ばしい。チャット機能などを使ったディスカッションにはご不満を持った向きもあったようだが、幾らかのお叱りを得ながらも、それでもなんとか成立していたことに安堵している。

そこで、このコロナ禍でのハイブリッド形式での大会記録を、なんらかの紙媒体の記録に残すことで、リアルができなかったことの代わりにはならないまでも、幾ばくかの補填になればと考えた。これは、STS学会の開催そのものとは別に、神戸STS叢書を借りて、また経営・国際文化の予算で、この報告書をまとめることになった。

このシンポジウムの開催とこの報告書の出版は、STS学会からの開催補助金のほか、以下の助成を受けたものである。

●JSPS科研費16K01163「トランスサイエンスからポストノーマルサイエンスへ」（研究代表者：塚原東吾）

●JSPS科研費18K01836「サイエンスが浸透した社会におけるイノベーションの理論基盤の整備と経験的研究」（研究代表者：松嶋登）

●神戸大学社会システムイノベーションセンター研究プロジェクト「物理学実践の解明を通じたイノベーション・マネジメントの探求」（研究代表者：松嶋登）

最後になったが、STS学会会長・調麻志さんと理事会・ウェッブ実行委員会の皆さん、それに神戸大実行委員会の各位には、以下に所属と名前をあげ、謝意を示しておきたい。

（学内）海事科学・山内知也、文・松田毅、理・牧野淳一郎、国際文化・小笠原博毅・辛島理人・田井中雅人、発達科学・伊藤真之

（学外）関西大学（元神戸大学経営）・原拓志、 東京海洋大学・柿原泰

準備および当日のハイブリッド、さらに事後の本報告書の編纂に特に力を貸してくれた以下のゼミ生・研究室メンバーである、松嶋研究室・高山直、塚原研究室・村山真白、岡本恵里奈、高田桃香、高橋陸斗ほか、SPring-8への事前の実地見学調査に参加してくれたり、当日のハイブリッド・セッションの運営を手伝ってくれた院生・学生の皆には、いい勉強になったと思うが、そういう押し付けがましい教員の企画に付き合ってくれて、どうもありがとう。君たちがいなければ、この企画はできなかった。